



最近では新NISAの影響や老後資金への不安等から投資に関する情報を目にする機会が増えました。以前「お金に関することわざ」をいくつか紹介しましたが、今回は「投資に関する格言」をいくつかご紹介したいと思います。

・卵は一つのカゴに盛るな…

一つのカゴに卵を全部入れると、カゴを落としたら中の卵が割れてしまいますが、複数のカゴに分散することですべての卵を一度に落とすリスクを減らそうという考え。**投資も分散投資を行うことにより、資産全体の損害を一度に受けにくくする効果**があります。

・もうはまだなり、まだはもうなり…

まだ上がると思っていると下がり始める、もうこれ以上は上がらないと思っていると、もっと上がることもある。逆にまだ下がると思うと上がり始める、もう下がらないだろうと思うと、もっと下がることもある。**投資経験者なら一度は経験するので、どんな場合も一度立ち止まって考えてみるほうが良い。**

・麦わら帽子は冬に買え…

有名な格言の一つ。麦わら帽子は夏に使うことが多いもので、冬場は売れ行きが悪く、値段も安い。**人が注目していないときに買って、注目している時に売れば儲かる。**

・人の行く裏に道あり、花の山…

上記と似た様な格言です。多くの人が歩かない裏道にこそ、得てして素晴らしいものが隠れているものだというたとえ。**人とは違う行動をとってこそ儲かる。**だからと言って裏道ばかりうろうろしていると世の中の流れには置いて行かれそうです。

・命金には手をつけるな…

命金とはまさに生きていくためになくてはならないお金。**投資はあくまで一時的に無くしてもかまわないと思える、すぐに使う必要がないお金で行うべき**という格言。投資に失敗して人生破綻する人の多くはこの線引きができていない人であろう。退職金で初めての全力投資…などはやめたほうがいいです。

・相場の器用貧乏…

器用貧乏は、「何事もそれなりにできるがどれも中途半端で大成しないこと」。株式投資でも**目先の損得を小手先でうまくこなしても、小さな損得を重ね大きな利益を得られない**ということ。「損切」も上手く立ち回ったようで、長期的にみると損しただけということも。

・遠くのは避けよ…

投資対象を選ぶのに自分の知らない業種を買うよりは、趣味や身近な日常生活と関連のある業種や仕事で関係がある業界など、**少しでも親近感や知識のある銘柄を選んだほうが、まちがいが少ない**ということ。これらは業界の変化にも気が付きやすいし、逆に自分がなじみのない業種は**変化や動向に気が付きにくい**ため避けたほうが無難だということです。

投資の格言には反対の意味を持つものが多数あります。絶対に儲かる投資はないということ。投資はあくまで自己責任で。

